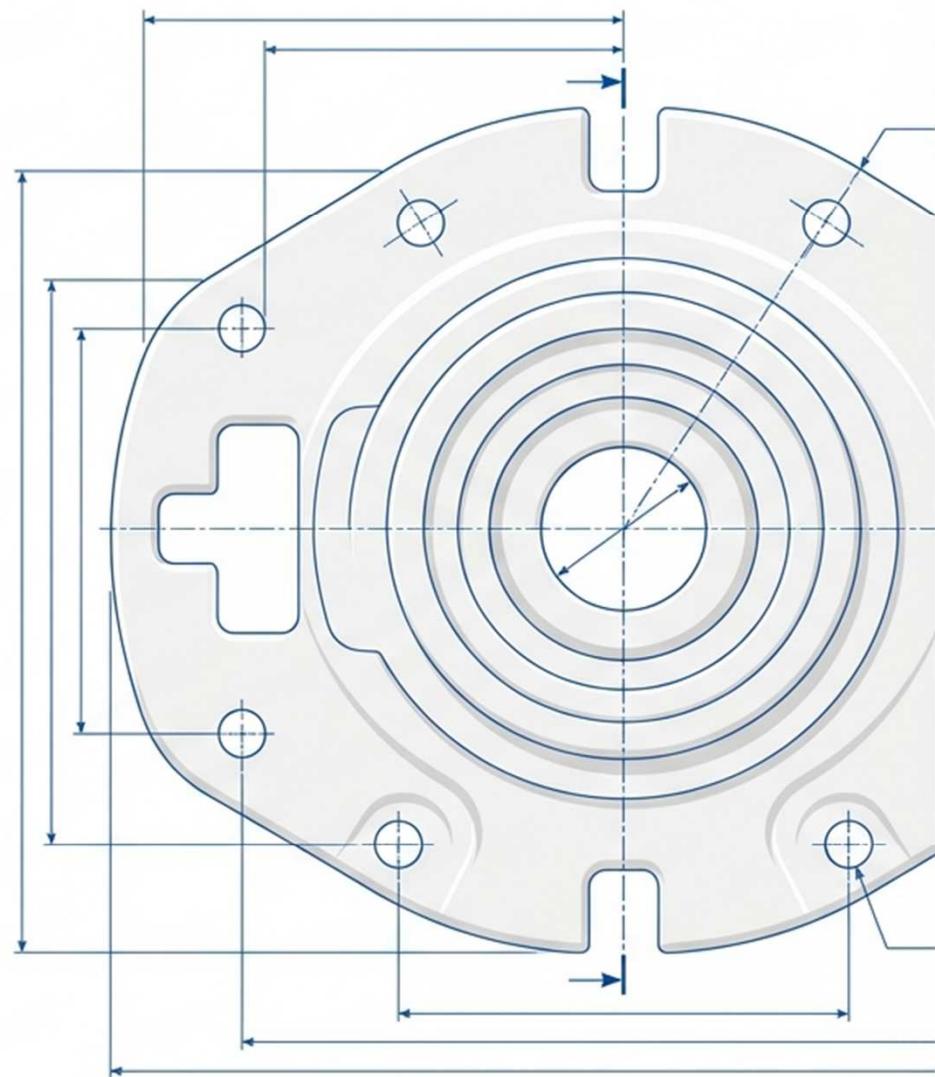


DX推進方針・戦略計画書

伝統技術とデジタルの融合による新たな価値創造



アスザック株式会社

創業1946年：伝統と強み



- 「人が好き 自然が好き」をスローガンに、地域・自然との調和を重視。
- 多分野の事業で培った「技術力」と「現場力」

外部環境の変化と脅威



- 顧客ニーズの高度化・多様化
- 労働力不足・エネルギーコスト高騰
- サプライチェーン複雑化

従来の「改善」だけでは持続的成長は困難。プロセス、意思決定、組織を変革するDXが不可欠。

経営ビジョンとビジネスモデル

“

デジタル技術を最大限活用し、ものづくりとサービスの革新を通じて、
お客様と社会に新しい価値を提供し続ける企業を目指します。

”



Manufacturing Tech



Digital IoT/AI



High Value Proposal Business

独自のものづくり × デジタル技術 = エンドユーザー密着型・高付加価値ビジネス

中期経営戦略

- 1 エンドユーザーとの密着度向上
- 2 全社的な付加価値創出
- 3 プロフェッショナル人材育成
- 4 情報共有と意思決定の迅速化
- 5 IT武装の推進
- 6 安全課題への適切な取り組み

DX戦略の3本柱：効率化・スピード・全体最適

① 経営の高度化



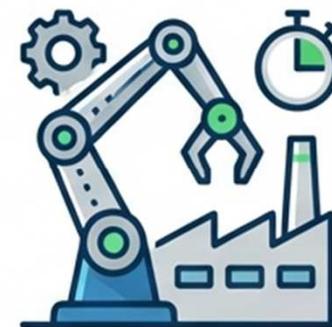
製造・販売・物流のデータ一元管理と可視化。迅速かつ的確な経営判断を実現。

② 競争優位性の確保



SCMおよびPSI（生販在）の強化。生産計画と実績の自動連携により、バリューチェーン全体を最適化。

③ スマートファクトリー化



生産能力・稼働率の可視化。無駄の排除によるコスト削減とリードタイム短縮、高品質の安定供給。

安全とイノベーション：持続可能な成長のために



人材育成（Human Capital）

DXを自律的に推進できる基盤づくり。全社員へのIT研修および生成AI活用教育の展開。



Safety First ASUZAC

「社員の安全はすべてに優先」。DX技術を用いた危険予知(KY)活動の高度化と、データに基づく事故・再発防止。



新事業の創出（New Value Creation）

データ活用によるイノベーション。変化する顧客ニーズを捉え、サステナブル社会に貢献する新領域を開拓。

DX推進体制：全社横断的な組織構造



DX推進環境：導入ツールとインフラ

意思決定・オフィス (Decision Making)	製造・エンジニアリング (Manufacturing)	物流・サプライチェーン (Logistics)
 <p>AI / BIツール (データ分析基盤)</p>	 <p>CAD / CAM / シミュレーション (設計・製造連携)</p>	 <p>配送計画・ルート設計システム (物流可視化)</p>
 <p>営業支援ツール (市場・顧客の可視化)</p>	 <p>IoTセンサ / RFID (稼働監視・在庫管理)</p>	 <p>PSIシステム (生産計画の刷新)</p>
 <p>生成AI / ノーコード (デスクワーク自動化)</p>	 <p>ロボット / 自動化 (作業効率化)</p>	 <p>CO2排出量可視化ツール (サステナビリティ管理)</p>

情報セキュリティ：信頼の基盤

基本方針 (Policy)



「経営の重要課題」として位置づけ。経営者主導で継続的な改善を実施。

教育・リテラシー (Education)



全従業員(雇用形態問わず)への継続的な教育。最新の脅威に対するリテラシー向上。

技術的対策 (Technology)



エンドポイント保護、操作ログ管理、UTM(統合脅威管理)、ランサムウェア対策。

ガバナンス (Governance)



社内規定の整備、法令・契約の厳格な遵守。



戦略達成のKPI：数値目標

業務効率化(間接部門)



1,600
時間 / 年

非効率業務のシステム化による削減

デジタル人材育成



36
アプリ開発 / 年

社員による自律的な業務アプリ開発数

ペーパーレス化



1,000
枚 / 年

紙削減とCO2削減への貢献

情報発信と社会への貢献

DX戦略、進捗、成果を自社ウェブサイトにて積極的に公開します。

-  -DX戦略の基本方針・ロードマップ
-  -推進体制およびガバナンス
-  -各施策の進捗状況とKPI達成度
-  -成功事例および社内外への波及効果
-  -人材育成・組織文化醸成の取り組み



透明性の高い情報開示を通じて、社会との価値共有を目指します。